

(電子メール施行)
農 技 第 1132 号
令 和 4 年 5 月 2 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報第1号を發表します。

昨冬は、積雪が見られる地域があったものの気温は平年並みで推移しており、スクミリンゴガイの越冬可能地域に大きな変化はないと考えられます。前年にスクミリンゴガイが確認された地域を中心に被害が発生するおそれがあるので、イネの移植前後の防除の指導をお願いします。

令和4年度 病虫害発生予察防除情報 第1号 スクミリンゴガイの防除対策について

- 1 対象作物 イネ
- 2 害虫名 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)
- 3 対象地域 県南部 (特に播磨地域と淡路地域)
- 4 スクミリンゴガイについて

- (1) スクミリンゴガイ (写真1) は水田内や水路等で土中に潜って越冬し、水温の上昇に伴って活動を再開する。本種の特徴は、複数本の横ストライプ模様の殻 (写真2) とピンクの卵塊である (写真3)。
- (2) イネの被害は、移植直後の3～4葉期の柔らかい葉で起こりやすく、5葉期以降にはほとんど起こらない。移植後から3週間頃までの本種の活動を、いかに抑えるかが重要である。
- (3) 昨冬の気温は平年並みに推移しており、越冬可能と推定される地域は図1の通りである。また、前年に本種の発生が確認されている地域については、特に移植前後の防除対策に努める必要がある。



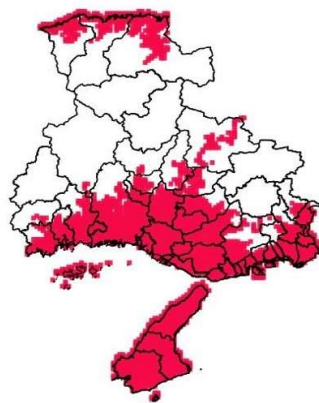
写真1 スクミリンゴガイ



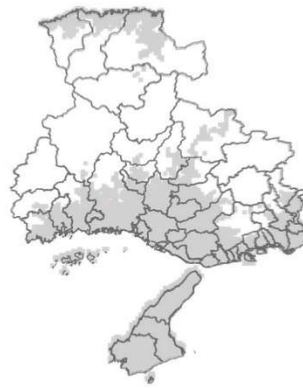
写真2 殻の模様



写真3 ピンクの卵塊



2021-22年



平年

図1 冬期の気温から推定されるスクミリンゴガイ越冬可能地域

農研機構メッシュ農業気象データ (The Agro-Meteorological Grid Square Data, NARO) (2021-22 気温データ、平年気温データ) をもとに低温積算温度(小澤・牧野, 1988) を算出して、越冬可能地域を推定。

5 防除上の注意点

(1) 耕種的・物理的防除

① 水路からの侵入防止

代かき前の入水期から移植後3週間(5葉期頃)まで、取水口に網を設置し(目合いは9mm以下で、大型の洗濯用ネットが使いやすい)、水路から水田への貝の流入を防止する(図2)。

② 移植後の浅水管理

本種は、水のない所では食害行動ができないことから、移植後から3週間程度までの期間、水深4cm以下(理想は1cm以下)の浅水管理を実施することで本種の被害が大幅に軽減できる。

圃場の凹凸差が大きい場合は、浅水管理だけでは被害回避が難しいため、薬剤防除などの手段も併用する必要がある。また、栽培後にレーザーレベラーなどを用いて圃場の均平化を図ると浅水管理がしやすくなる。

③ 貝の捕殺と殺卵

移植直後の食害を防ぐため、移植前～直後に貝を捕殺する。誘引資材としてジャガイモやナス、キャベツなどを用いると、効率的に捕殺できる。卵塊は押しつぶして処分する。貝には人体に有害な寄生虫(広東住血線虫)がいる可能性があるため、作業に当たっては直接触れないようにゴム手袋を着用するなど注意する。

(2) 化学的（薬剤）防除

前述の対策だけで、なおスクミリンゴガイの被害が懸念される場合、本田防除を行う（防除の目安：水稻移植時、殻高 25mm 以上の貝が 1 m² 当たり 1.5 頭以上で即時防除）。薬剤は湛水状態で施用し、3～4 日間は水の入出流をさける。また、漏水田では効果が劣ることがある。

薬剤防除に当たっては、スクミリンゴガイに登録のある薬剤を使用し、使用時期、使用量などの適用条件を遵守する。

(3) その他の防除対策や本種の詳しい生態については、農作物病害虫・雑草防除指導指針の参考資料「3-3 スクミリンゴガイの生態と防除対策」を参照する。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/hyogo>)

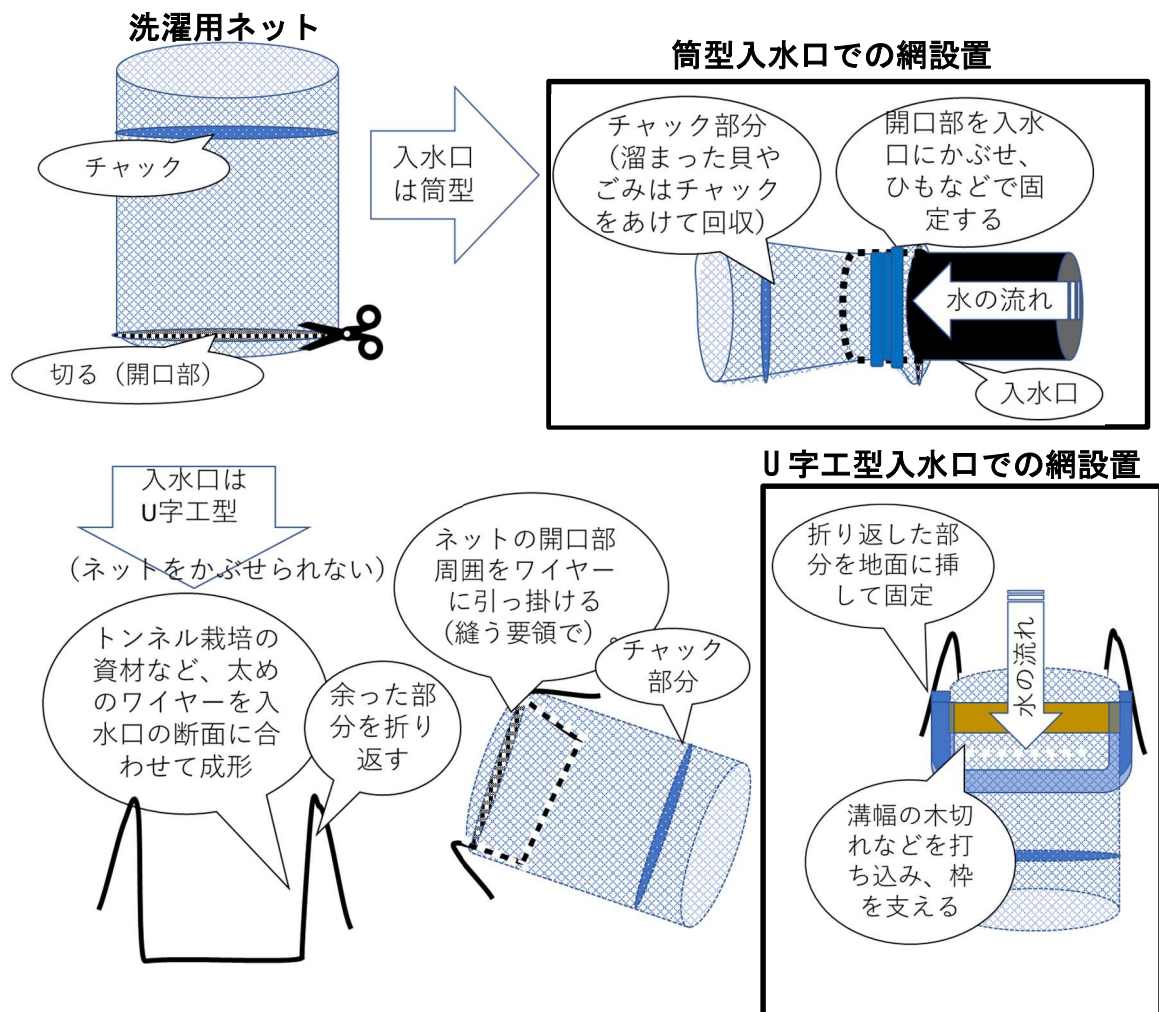


図2 入水防止網設置の例

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページ

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載しています。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222